

○「新規就農に関する支援策を学ぶ」

(南丹市南丹地区(担い手対策)小委員会第2回会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成31年3月1日午前10時～12時
- 場 所: 南丹市役所3号館2F 201会議室
- 出席者: 農業委員5人、最適化推進委員5人
府担い手育成課佐々木副室長
- 報告者: 原田清弘 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

○京都府のほぼ中央部に位置し、大半を丹波山地が占め山陰内陸性気候で京都市への通勤圏にあり年々農家数が減少している。水稲作が多くその他麦、豆類が栽培され、京のブランド産品(水菜、壬生菜、九条ねぎ、紫ずきん、黒大豆、小豆)の栽培が盛んである。

○農家戸数の減少、農業従事者の高齢化等が進行する中、農業の持続的な振興及び農地の多面的機能を維持していくためには、担い手の育成・確保が重要な課題である。

3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 各委員が新規就農や担い手への支援制度を熟知して、相談等に対応できるよう府担い手支援課の佐々木副課長から国・府の担い手育成に係る取組や支援制度を受講
- 新規就農の相談からインターンシップ、実践農場の仕組み、次世代人材投資事業や融資に至るきめ細かな支援策を理解
- 新規就農者に対して、農地相談だけでなく総合的に関係機関と連携した支援の必要性を理解



4 活動結果

- 情報・意見交換 **2** 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援